

日本医療研究開発大賞受賞者（1）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
内閣総理大臣賞	日本光電工業株式会社	パルスオキシメータの開発と実用化	同社は、パルスオキシメータの原理に関する特許を出願、取得。非侵襲かつ継続的に酸素飽和濃度を測定可能なパルスオキシメータは世界中で使用されている。
健康・医療戦略担当大臣賞	宮城県立がんセンター研究所 特任部長 菅村 和夫	サイトカイン受容体の構造解明と超免疫不全マウスの開発	サイトカイン受容体“ γ 鎖”を発見し、 γ 鎖遺伝子変異に因るX連鎖重症複合免疫不全症の病態解明ならびに γ 鎖欠損マウスを用いた超免疫不全マウスの開発に貢献した。
文部科学大臣賞	東京大学大学院医学系研究科 教授 水島 昇	哺乳類オートファジーの分子機構の解明	酵母を用いたオートファジーの研究を大きく展開し、マウスやヒト等の哺乳類に発展させた。特に、オートファジー遺伝子の機能解析、オートファジーの生理学的・病態生理学的意義を解明し、世界を先導する独創性の高い研究業績をあげた。
厚生労働大臣賞	中外製薬株式会社 奈良県立医科大学 医学部長 嶋 緑倫	血液凝固第Ⅷ因子機能を代替するバイスペシフィック抗体医薬の創製	中外製薬が開発したバイスペシフィック抗体のヘムライブラは、血友病Aの第Ⅷ因子の補因子機能を代替する。奈良県立医科大学は、本剤の評価、臨床試験の設計・推進を担った。本剤は、現在世界90カ国以上で承認され、患者と家族のQOL向上に大きく貢献。
経済産業大臣賞	株式会社日立製作所 北海道大学医学研究院 連携研究センター 教授 白土 博樹	動体追跡粒子線がん治療システムの開発と実用化	北海道大学開発の“動くがんを追跡できる動体追跡技術”と日立の“スポットスキャン技術”を融合した動体追跡陽子線がん治療装置を開発、実用化し国内外へ普及させた。

日本医療研究開発大賞受賞者（2）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
AMED理事長賞	大阪大学 大学院医学系研究科 遺伝統計学分野 教授 岡田 随象	遺伝統計学を駆使した「ゲノム個別化医療」への貢献	遺伝統計解析を行い、日本人集団のゲノム多様性が、多因子疾患に対する個別化医療実装時のバイアスとなることを解明(世界初)。疾患ゲノム情報と組織特異的マイクロRNA発現情報を統合する手法(MIGWAS)を開発し、関節リウマチのマイクロRNAバイオマーカーを同定
AMED理事長賞	筑波大学医学医療系 准教授 坂田(柳元) 麻実子	T細胞リンパ腫におけるゲノム異常を有するがん細胞と微小環境細胞の本態解明に基づくがん治療戦略の確立	血管免疫芽球形T細胞リンパ腫における特有なゲノム異常を同定し、国際的分類法・診断法を変更。更に、がん微小環境における相互作用の変容を解明し、新規治療標的を同定。
AMED理事長賞	長崎大学 熱帯医学研究所 病原体解析部門 教授 MOI MENG LING(モイ メンリン)	デング熱やジカ熱などの蚊媒介性感染症の伝播様式及び免疫応答の解明への貢献	アジアにおけるジカ熱の流行動態を解明し、感染症対策に貢献。デング熱患者の免疫応答や重症化機構の一端を解明し、ワクチン及び抗体医薬品開発の基盤確立に貢献。